

少年消防クラブニュース

発行/ 財団法人 日本防火協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16

(日本消防会館内)

TEL 03(3591)7121

FAX 03(3591)7130

http://www.n-bouka.or.jp

(季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社



指導者からの便り

本号では、消防団員として少年消防の指導に当たっておられる指導者2名の方から、少年消防の育成にかける思いや活動状況について寄稿いただきました。

これからも続けていきたい

東京都 調布消防少年団

指導者(調布市消防団) 馬部 純一郎



小学5年で入団

調布消防少年団に入団してから20年近くが過ぎようとしています。

私の父は消防団員をしてきたことがあり、幼いころから「消防」と接すること多かったです。小学校5年生のときに入団し、中学生では指導団員になりました。卒業と共に少年団も卒団(東京消防少年団は中学校3年生までが対象)しましたが、何の迷いもなく活動を続け、高校生で指導者、その後は指導者として活動しています。

活動の基本規律訓練

普段の活動は、団員の心構えを示す「七つのちかい」の唱和、東京消防少年団歌「素晴らしい仲間たち」の斉唱、活動の基本である規律訓練から始まりま



す。1日3時間、月に2回という限られた時間を有効に活用するため、団員には

「気をつけのできる子」を目標に指導しています。伝達事項が一回で伝わるように「聞くときは聞く」、次の行動が早くできるように「動くときは動く」、そして、号令がかかったら背筋をまっすぐに不動の姿勢で立てるように「動かないときは動かない」という「気をつけのできる子」を目標としています。ときには「遊ぶときは遊ぶ」も大切に、一緒に走り回っています。

協調性や自身につなげる

当少年団では、東京消防少年団の中でも数少ない鼓笛隊が編成されています。

楽器を練習して全員でひとつの音楽を演奏すること、団員同士の協調性の向上や、東京消防出初式など



で演奏することで、人前でも何かをすることへの自信にもつながっています。

ホームページを開設

今年度、モデル少年消防クラブとして選定され、研修会を通じて全国の指導者と交流する機会を得ることができました。しかし、東京消防少年団の中でも他の指導者と交流する機会が少ないのが現状です。そんな中、他の少年団と交流した

地域との連携を大事に

高知県 伊田少年消防クラブ

指導者(黒潮町消防団) 澤田 浩文



東日本大震災でお亡くなりになられた方々に心よりお悔み申し上げます。また、被害を受けられた皆様に対しお見舞いを申し上げます。

活動について話し合う

私たちの住む黒潮町というところは、海岸沿いに面した地域で、昔から地震津波は関心事であります。また、神戸・淡路の震災から、新潟、東日本大震災で

い、多くの方に少年団を知ってもらいたい、という目的から独自のホームページを開設しています。団員募集や活動内容の紹介をしており、これからの可能な限り続けていきたいと思っています。

消防団で学んだことを活かす

今年の4月から、私も消防団員としての活動が始まりました。これまで少年団で学んだことを活かすと共に、災害で活動する消防団で学んだことも活かして、これからも調布消防少年団での活動を続けていきたいです。そして、多くの団員が「消防」を続けてくれたらと願っています。

保護者に手紙を書く

指導者としての苦労といえば、全国的に少子高齢化ということ、子どもの数も減っていることもそうですが、同様に保護者の数も減っています。何かイベントをするにしても、大人の人数が足りないのも事実です。そういった時に、地域の人たちの助けで運営ができています。

そこで、発足当初に以下のような内容で保護者の皆さんへ手紙を書きました。

『年々、子どもの数は減少し世帯数が減っています。間違いなく親への負担(金銭、労力)は掛かると思いますが、だからと言って、はじめから諦めるような行動

活動を進めて行くか?を仲間です。去年のことです。そう

私たちの地域は、元々

『地域で子どもたちを育てよう!』という組織があり、消防団、部落の自主防災組織、婦人防火クラブ、



ちに楽しい一年を送れるよう頑張ります!」と、生意気な言葉でクラブを出発しましたが、その甲斐あって皆が力を合わせて頑張っています。

学校と連携した避難訓練を計画。実際の少年消防活動は、水難訓練、防災キャンプ

(親子参加)、年末警戒「火の用心!」など、月並みな活動ではありますが、少年消防クラブとして発足したからにはもっと、有意義な活動になるよう地域との連携を大事にしたいと思います。

今年は、学校と連携した避難訓練活動も計画しており、各関係団体の協力のもと子どもたちと一緒に活動に励みたいと思います。

Boys and Girls Fire Club

少年消防クラブ指導者研修会

開催日時 2月11日(土) 13:00~、12日(日) 9:00~

参加者 モデル少年消防クラブ指導者等
※おって開催通知をご案内申し上げます。会場 都市センターホテル オリオン(5階)
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1内容 ・11日 活動報告「東日本大震災での体験」気仙沼市立階上中学校
訓練披露 応急手当入門コース、災害図上演習(DIG)
・12日 意見交換会主催: 少年消防クラブ活性化推進会議
(事務局: 日本防火協会、日本消防協会)

地域防災と少年消防クラブ

（財）日本防火協会 振興部長 児山 貴一

はじめに

昭和25年12月当時の国家消防庁の通知を機に発足した少年消防クラブは、今では全国で4、841クラブ（平成22年5月）を数え、約42万人のクラブ員がそれぞれの地域で活動している。

また、少子高齢化や地域コミュニティの弱体化など、地域防災を取り巻く環境が大きく変化したことを受け、これからの地域防災を担う人材の育成のためにも少年消防クラブに対する期待は益々高まっている。

そこで、近年の地域防災や本紙の取材などを通して得られた少年消防クラブに関する情報をお届けし、今後のクラブ運営の参考に供することとしたい。

地域総合防災力

さて、平成20年11月、消防審議会に設けられた小委員会（委員長・秋本敏文日本消防協会理事長）から「地域総合防災力の充実方策について」と題する報告

がなされた。災害列島と言われる我が国の地域防災にとって、今後取り組むべき方策を示した極めて重要な提言である。本年3月に未曾有の被害をもたらした東日本大震災が起きた年だけ

らこそ改めて注目したい。

地域総合防災力。それは、災害発生時の被害を最小限にとどめるため、公設の消防、消防団と民間の自主防災組織、婦人防火クラブ、企業等がそれぞれの役割を担い「地域で連携協力することでの総合力」を意味する。すなわち、大規模災害時には、ライフラインが寸断され、広域的な応援態勢が整うまでには時間を要することから、災害発生直後から活動することができる身近な防災力が、全国それぞれの地域に存在することが必要との認識に基づいたものである。

被災地からの証言

ここに、以前お話を伺ったことのある神戸市の救急救命士、末吉秀喜氏の言葉を紹介しよう。

『私の救命士資格取得後の忘れられない出来事は、なんとと言っても、阪神・淡路大震災です。この時ほど無力を感じたことはありませんでした。』

地震発生は、救急出動から帰って、少し仮眠しようかと横になった途端にやってきました。地震直後は119通報もパンクし、大災害の初期は混乱の極みです。死傷者は市内全域に何

万人といるのに、道路は地震により寸断、放置車両多数で、数少ない通れる道路は一般車両で渋滞。たどり着ける救急車も少なくなっていくわけです。』

貴重な証言である。大規模災害時には、救援隊が到着するまでに相当の時間を要するのである。東日本大震災においても、南三陸町立歌津中少年消防クラブの佐藤公治教諭が、本紙第6号の記事の中で『陸の孤島と化し、電気も水道も途絶し、消防団を頼みの綱にみんなが力を合わせて難局を乗り越えなければならぬ状況でした。』と被災直後の体験を述べている。

これらの証言からも、普段からの取組による地域総合防災力の充実が、いかに大切かがよく分かる。そして、少年消防クラブは、将来まで考えた広い意味で、地域総合防災力の重要な一翼をなすものと期待されるのだ。



少年消防クラブの子供達(四万十市)

少年消防クラブの活動

それでは、少年消防クラブの活動とそのあり方を、平成22年3月に総務省消防庁から出された「少年消防

クラブの充実方策に関する検討会」（座長・重川希志依富士常葉大学大学院教授）の報告書から見てみよう。要点はこうだ。

○現在、クラブの中心メンバーは小学生であり約7割を占めている。小学校の防災教育により、子供の頃から意識づけを行うことは非常に有効である。

○一方、中学生、高校生には、指導者の役割や将来の地域防災の担い手としての期待があり、より実践的な活動の実施について検討する必要がある。

○クラブ活性化のために多くのメンバーを確保する必要がある。そのため、活動目的や内容を、学校関係や社会一般にPRすることが重要である。

○クラブの結成や活動の継続のためには、消防機関や消防団をはじめ、婦人防火クラブなど地域の各種団体との連携協力が必要である。としている。

中学生、高校生の参加

報告書では、中学生に対して実践的な活動を望んでいるが、中学生ともなれば体力的にも十分な活動が期待できる。東日本大震災では、金石東中学校の生徒たちが小学生の手を引き、あるいは幼い子どもを背負い、避難場所を変えながらも全員が無事高台に避難することができた。金石の奇跡との称賛の声に「普段の訓練どおりのことをしただけです。」と答える彼ら（平成23年8月・内閣府主

催「防災フェア2011」にて）。これからは、少年消防クラブの訓練内容を工夫し、中高生メンバーを増やしていくことが必要である。状況にもよるが、高校生などは災害発生時の実践力として活動しうるだろう。

去る2月に開催した「少年消防クラブフォーラム2011」で基調報告をした東京都の府中消防少年団のように、既に高校生が指導者として活躍しているクラブもある（本紙第4号）。また、青森県では五戸高校、十和田西高校（下段に紹介記事）と平成22年から今年にかけて、高校生主体の少年消防クラブが相次いで誕生したのも特筆すべきことである。

活動の活性化に向けて

報告書では、PRの重要性にも言及している。子供たちに活動の楽しさや内容を伝えて積極的に勧誘しないと、他の部活などに流れてしまう。熱心なPR活動により広く社会に認知されることは、地元企業の支援など活動費の確保にもつながっていくだろう。さらに、活動の継続のためには、地域の各種団体との連携協力が必要としている。すなわち、実技訓練の実施、防災行事への参加、活動計画の学校との調整などについて、消防本部、消防団及び教育関係者の積極的な対応が期待されているのである。

また、クラブの指導者に

は、子供に対する指導法や少年消防クラブの運営に関する情報を提供することも必要である。特に、他の少年消防クラブとの情報交流を図ることは、お互いの意識の向上につながる。活動がマンネリ化しているクラブには打開の手がかりとなるだろう。

むすびに

全国4千8百余の少年消防クラブにおいては、その生い立ちや地域の特性に応じた様々な活動が行われていると思うし、これを継続することが大事だが、将来の地域防災を担う人材の育成のためにも、これから、中高生メンバーがリーダー的な役割を果たし、よ

（本紙の既刊号は、日本防火協会のホームページ（www.n-bouka.or.jp）からご覧いただくことができます。）



り実践的な活動を視野に入れた少年消防クラブが全国に広がっていくことを期待したい。

少年消防クラブの活動

十和田西高校少年消防クラブ

青森県立十和田西高等学校教諭 会津淳也

青森県 防災訓練

大地震を想定し、食料等の物資も調達できない状況は、今まで経験をしたことのない不安が続きます。私達の心のゆとりさえ奪っていきました。

今年4月に少年消防クラブを結成し地域防災に貢献したいという使命感のもと、各種訓練をしています。

三郷市少年消防クラブ

三郷市消防本部消防総務課 荻浦正樹

埼玉県

本年4月に結成された三郷市少年消防クラブの本格的な活動となる3DA

す。この大震災の経験から、先生任せではなく生徒一人一人が防災に関する知識を習得し、適切な判断をすることが大切であることを学びました。

10月13日(木)、クラブ員を先頭に学校全体で総合防災訓練を行いました。その際、クラブ員は消防用設備等の有効活用を念頭に置き、救助袋を使用した避難の補助や屋内消火栓による初期消火訓練を実施しました。さらに、倒壊した塀の下敷きになっている負傷者を担架使用による救出と三角巾での応急手当やAEDの救命処置訓練を実施し、最後は生徒全員に消火器の使用方法の説明と水消火器による実射体験を行いました。各種資器材の使用や人に指示して行動させることの難しさを体験でき、今後も継続して訓練していかねばならないと感じました。

学校は、大規模な災害があった場合には避難施設になる可能性が高く、被災後の避難場所での活動はとても重要であると認識しています。過去の災害を教訓にその対応方法や必要資器材等の訓練を重ね、地域住民に適切に対応していけるよう活動を深めていきたいと考えています。

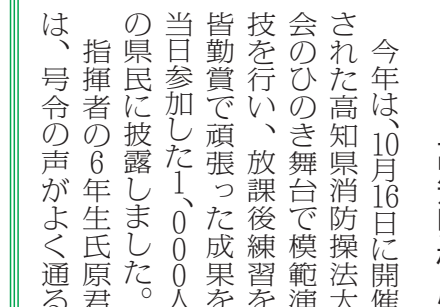


た。
子供たちは、真夏の暑さに耐え、訓練礼式やホース延長などの基本訓練、救助隊体験として高所からロープで降りる降下訓練やロープを渡る渡過訓練など、救助隊員さながらの訓練を行いました。「小学5・6年生には、厳しすぎるのでは」との指導員の心配をよそに、子供たちは救助隊員の指導を熱心に聞き、参加者全員が無事訓練をやり遂げ、「少し怖かったけど、楽しかった」「もっとやりたい」などの声があがり、充実した訓練となりました。

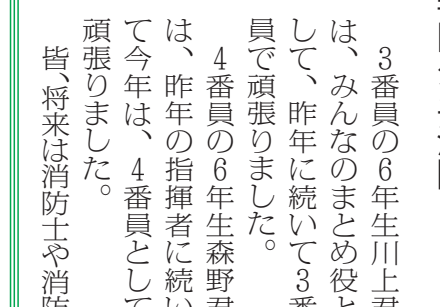
また、実技訓練の他にも「119番通報訓練」や「もし地震が起こったら」と題し、グループごとに話し合うなど、活発な意見が交わされ、防災リーダーとしての第一歩を踏み出しました。



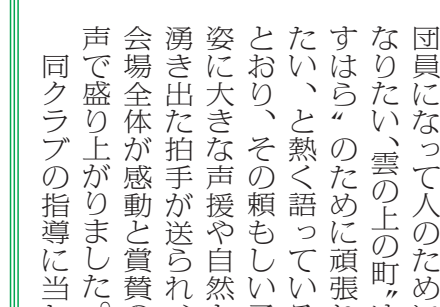
最終日には、飯ごうを使った炊き出し訓練を行い、子供たちは新聞紙でコップを作ったり、限られた水で料理を作ったりと、災害時を想定した訓練に真剣に取り組



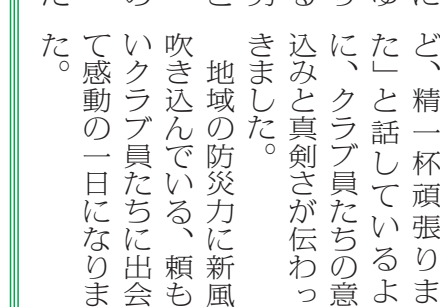
り組みました。指導員の方も飯ごう経験者が少なく心配されましたが、みんなで作ったカレーライスの味は格別に美味しかったようです。



子供たちは3日間を通して、消防の訓練や防災の知識を学ぶ事により、普段の生活が、とても恵まれている事に気づき、感謝の気持ちを持ったようでした。



志村消防少年団 消防少年団担当 安川由利
今年10月志村消防少年団(団長江口秀明)が、地域行事に参加し火災予防を呼びかけました。



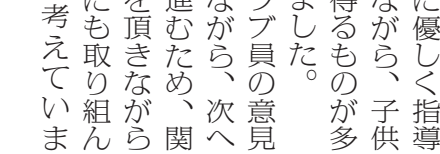
地域行事が管内の小学校で実施され、当日はあいにくの雨模様でしたが、火災予防のパンフレットを配布したり、呼びかけを実施しました。



また、志村消防少年団では、東京消防少年団のマークと志村消防少年団の名前の付いたヘルメットを作成し、モデル署として頂いた制服を着用していない団員達は、そのヘルメットを被り広報を実施しました。



志村消防少年団 消防少年団担当 安川由利
今年10月志村消防少年団(団長江口秀明)が、地域行事に参加し火災予防を呼びかけました。



また、志村消防少年団では、東京消防少年団のマークと志村消防少年団の名前の付いたヘルメットを作成し、モデル署として頂いた制服を着用していない団員達は、そのヘルメットを被り広報を実施しました。

見てある記

昨年4月、88のモデル少年消防クラブに選定された高知県越知面少年消防クラブは、未来の消防人を目指して積極的に活動してきています。同クラブは、今春4月に梶原町の小学校3校と中学校1校が合併し、小中一貫校となったことにより、クラブ名を「梶原学園少年消防クラブ」と名称変

更し、新たなスタートをきりました。
梶原学園少年消防クラブでは、平成14年から軽可搬ポンプ操法を習得し、その結果を住民に防火意識を高めてもらおうと、毎年運動会などで披露してきています。

1番員の5年生中越君は、元々左利きですが、右手でホースが投げられるように頑張りました。
2番員の6年生吉村君は、重いホースを延長したり搬送したり、小さな体で頑張りました。

3番員の6年生川上君は、みんなのまとめ役として、昨年に続いて3番員で頑張りました。
4番員の6年生森野君は、昨年の指揮者に続いて今年も、4番員として頑張りました。

指揮者の6年生氏原君は、号令の声がよく通る

今年、10月16日に開催された高知県消防操法大会のひのき舞台で模範演技を行い、放課後練習を皆勤賞で頑張った成果を当日参加した1,000人の県民に披露しました。

指揮者の6年生氏原君は、号令の声がよく通る

今年、10月16日に開催された高知県消防操法大会のひのき舞台で模範演技を行い、放課後練習を皆勤賞で頑張った成果を当日参加した1,000人の県民に披露しました。

志村消防少年団 消防少年団担当 安川由利
今年10月志村消防少年団(団長江口秀明)が、地域行事に参加し火災予防を呼びかけました。

また、志村消防少年団では、東京消防少年団のマークと志村消防少年団の名前の付いたヘルメットを作成し、モデル署として頂いた制服を着用していない団員達は、そのヘルメットを被り広報を実施しました。

また、志村消防少年団では、東京消防少年団のマークと志村消防少年団の名前の付いたヘルメットを作成し、モデル署として頂いた制服を着用していない団員達は、そのヘルメットを被り広報を実施しました。

また、志村消防少年団では、東京消防少年団のマークと志村消防少年団の名前の付いたヘルメットを作成し、モデル署として頂いた制服を着用していない団員達は、そのヘルメットを被り広報を実施しました。

また、志村消防少年団では、東京消防少年団のマークと志村消防少年団の名前の付いたヘルメットを作成し、モデル署として頂いた制服を着用していない団員達は、そのヘルメットを被り広報を実施しました。

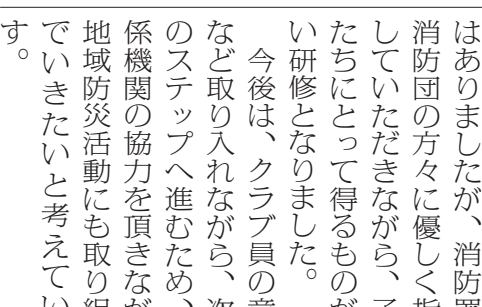
また、志村消防少年団では、東京消防少年団のマークと志村消防少年団の名前の付いたヘルメットを作成し、モデル署として頂いた制服を着用していない団員達は、そのヘルメットを被り広報を実施しました。

また、志村消防少年団では、東京消防少年団のマークと志村消防少年団の名前の付いたヘルメットを作成し、モデル署として頂いた制服を着用していない団員達は、そのヘルメットを被り広報を実施しました。

また、志村消防少年団では、東京消防少年団のマークと志村消防少年団の名前の付いたヘルメットを作成し、モデル署として頂いた制服を着用していない団員達は、そのヘルメットを被り広報を実施しました。



志村消防少年団 消防少年団担当 安川由利
今年10月志村消防少年団(団長江口秀明)が、地域行事に参加し火災予防を呼びかけました。



志村消防少年団 消防少年団担当 安川由利
今年10月志村消防少年団(団長江口秀明)が、地域行事に参加し火災予防を呼びかけました。



志村消防少年団 消防少年団担当 安川由利
今年10月志村消防少年団(団長江口秀明)が、地域行事に参加し火災予防を呼びかけました。

南足柄市中学校消防クラブ
南足柄市防災安全課 消防団担当 飯塚健一
今年5月22日(日)に発足した、南足柄市中学校消防クラブ(総数55名)は、夏期訓練講習を、8月に足柄消防組合消防本部・本署で実施しました。当クラブは市内3つの中学校の各消防クラブで構成されており、各校2日間の日程で訓練・講習を行い46名が参加しました。

訓練内容は、1日目が礼式訓練、救助資機材取扱、放水訓練、梯子車・署の屋根の上・三連梯子で降下、普通救命講習(修了証発行)でした。普通救命講習では恥ずかしさからか、参加者に女子が多いせいか、ついワイワイ騒いでした。教官の「君

たちは人の命を助ける訓練をしているんだ。そんな笑ってやっていてはだめだ。」との叱咤に一同静まり返り、非常に密度の濃い講習ができました。

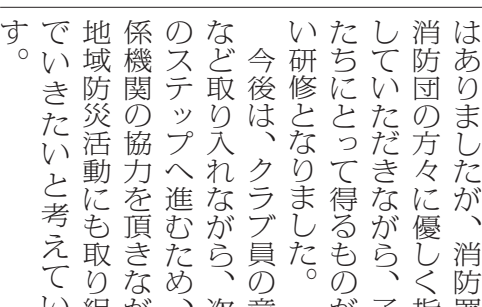
2日目は、ロープワーク、訓練塔からの降下訓練、消火訓練、119番通報訓練、と多彩な訓練内容であり、瀬戸消防団長は「消防団よりすごい訓練をやっている。」と感想を述べられました。

下田少年消防クラブ

幡多中央消防組合四万十消防署 浅尾 拓
今年8月23日(火)、幡多中央消防組合四万十消防署において、真新しい活動服に袖を通し、「下田少年消防クラブ研修会」を実施しました。



志村消防少年団 消防少年団担当 安川由利
今年10月志村消防少年団(団長江口秀明)が、地域行事に参加し火災予防を呼びかけました。



志村消防少年団 消防少年団担当 安川由利
今年10月志村消防少年団(団長江口秀明)が、地域行事に参加し火災予防を呼びかけました。



志村消防少年団 消防少年団担当 安川由利
今年10月志村消防少年団(団長江口秀明)が、地域行事に参加し火災予防を呼びかけました。

八女市矢部少年消防クラブ

八女東消防署矢部分署 下川将希

福岡県

10月16日(日)福岡県八女市矢部村の第一運動場において矢部地区体育祭が開催され、その中で八女市矢部モデル少年消防クラブによる「小隊訓練」を実施しました。体育祭の中で小隊訓練は初の試みです。

10月上旬から毎朝授業前に消防職員の指導のもと厳しい訓練を行ってきました。当日は、支給された新しい活動服に身を包み訓練の成果を多くの来賓、保護者、地域の方々の前で披露しました。

期待していたとおり、クラブ員は指揮者の指揮のもとときびきびとした動きを見せ、会場からは歓声と大きな拍手があがり、小隊訓練を終えたクラブ員たちほども誇らしげで達成感に満ち溢れていました。また、普段小隊訓練を行っている地元消防団員の方も感銘されていました。



今後、クラブ員一人一人にまかれた防災の芽が、その家族、同級生へと枝を広げていくことを目指し、活動の輪を広げていきたいと思っています。

高瀬少年消防クラブ 春日少年消防クラブ

日田玖珠広域消防本部予防係 金子 徹

大分県

8月1日(月)と2日(火)の2日間の日程で、本年度、支給されたピカピカの活動服を身に着けた高瀬少年消防クラブ6名と春日少年消防クラブ7名による少年消防クラブ員研修が、日田消防署で実施されました。今回の研修は、大規模災害時における避難所生活も経験してもらうため、宿泊を伴う研修となりました。

第1日目の研修は、少年消防クラブ員としての心得、基本動作(気をつけ、整列休め、敬礼、方向転換等)の研修後、日田消防署における通信指令室での119番受信方法や地図検索装置等の説明を受けました。



また、各消防車両の役割や積載器具の説明を受け、大型油圧救助器具による鉄パイプ切断体験を実施しました。救急講習の研修では、人工呼吸や心臓マッサージ、三角巾によるけがの処置等の研修を受けました。その後、エアートントによる避難所の設営を行い、クラブ員による夕食(カレーライス)作りを実施しました。

大分県

姫島中学校少年消防隊

姫島村消防団 団長 浜田洋介

姫島村は、瀬戸内海の西端、大分県国東半島の北5キロの海上に浮かぶ、周囲17キロ、人口約2、400人の沿岸漁業と車えびの養殖を主な産業とする、一島一村の離島です。

姫島中学校少年消防隊は、昭和29年に発足しました。当時は、消防署もなく、消防団員の大半が漁業者であつたことから、消防団の補完と防火教育が主な目的でした。

幸い少年消防隊が活動する事態が発生することなく、昭和48年、村が東国東消防組合に加入し、消防署が設置されてからは、防火教育と団体活動による秩序ある生活態度の養成等が主な目的とされています。少年消防隊の発足時は、

中学校2・3年生男子の隊員25名ずつの2小隊で組織されていましたが、現在は、少子化や高校受験等の教育環境の変化等により、中学校1・2年生男子の1小隊となっています。

少年消防隊は、消防団や消防署等の指導を受けた訓練の成果を、毎年1月の姫島村消防団特別点検で披露しており、そのキビキビした動作は消防団に負けないと、皆さんから大きな拍手を頂いています。少子高齢化が進むなか、姫島中学校少年消防隊は、村民にとって頼もしい存在です。

宝くじは、 地方自治体の公共事業等に 幅広く使われています。

NEW!

ワクワク、 続々。

宝くじの収益金は、
病院や検診車、図書館や動物園、
災害に強い街づくり、
緑あふれる公園、美術館など、
皆様の暮らしに役立てられています。

